

## 子どもの頃(後編)

### 上本かず

益々戦争が激しくなつた頃、高等科に進み、私達もナギナタを習い、その内工場が忙しい高等一年の時、内地の二十歳以上の若い人達は皆兵隊にとられた。

須原の軍事工場で飛行機の扉を作ると何か白い粉をすり鉢で、扉の板を貼りつけ板金では何を作つてゐるのか一切秘密でした。

天皇陛下のためお国のために、何でも秘密で私達には遊ぶことも許されない。工場の壁にはアメリカの悪口ばかり書かれていきました。

花もつぼみの若桜  
五尺の命ひつさげて  
國の大事に殉ずるは

我ら学徒の面目ぞ

ああ紅の血は燃ゆる  
神風日の丸の手ぬぐい、はち  
まきをして、そんな歌を歌い  
ながら木の板で作つた飛行機  
の扉で勝てるはずが無い。そ

んな事一言も口に出せず働いた。間もなく八月十五日、日本は負けた。

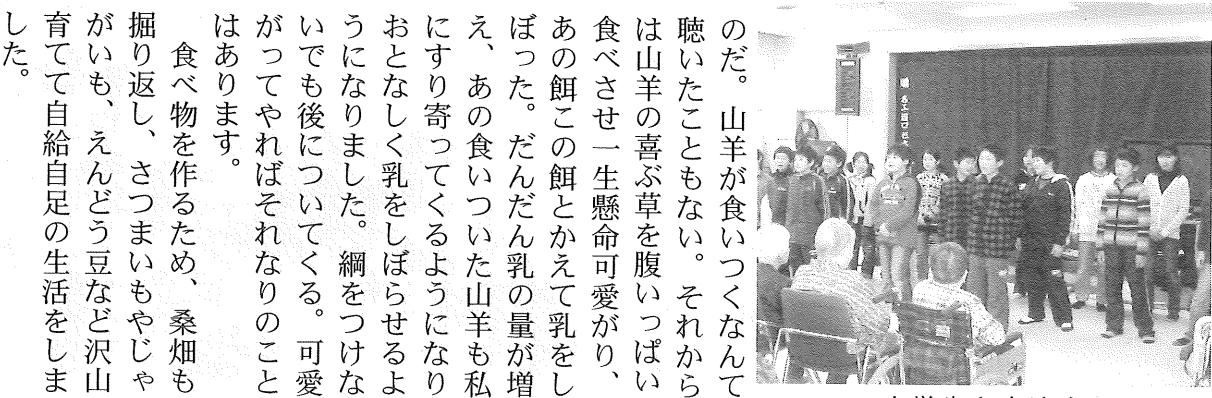
その一日前、飛行機が後のほうから何かばらまいていつた。アメリカの飛行機だつた。日本やぶれたみたいなことが書いてあつた。私は体中の力が抜けていくのをどうすることもできなかつた。おじや姉もちょうど開田から来ていた。

日本は負けたがこんな田舎の村へはアメリカ兵は来なかつた。大切にしていた池の鯉も食べてしまい、なんでも恐ろしい毎日が続いた。支那

へ行つていた兄も帰つてきなつてきた。  
一人でそつと水車小屋をのぞいて見たら米が少しあるのでこれから白い米が食べられると思つたそうです。

白いご飯どころか、どこの家も戦死した人や帰る人食料難でいたるところで食べ物を探して、他人のものを盗みに來たとか。私の家は山の中だから難を逃れた。里の町方の方では、芋やかぼちゃ、イナゴを獲るふりをして稻をこいで行く、なんと哀れなことか。店には何も無く栄養失調の人は皆大変なことである。

私の家では山羊を飼つていだが、餌もろくにやらず泥だらけの所で飼つていたから乳も出ず、父は私に山羊の乳をしぼつてくるよう言いました。私は山羊ほどきれい好きな動物はいないことを知つていました。初めての乳しぼり返し、さつまいもやじやがいも、えんどう豆など沢山育てて自給自足の生活をしました。



みんなで楽しいリハビリ体操



小学生と交流会